

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援そらいろ（利用児童がいない）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0枚
○従業者評価実施期間	2025年 11月 20日		～ 2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5枚
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・自由度が高く、子どものやりたいことに乗っかることができる。	・活動が幅広く、多面的で、普段の生活で取り組めないようなこと、自然に触れてみたり、社会に溶け込む活動を取り入れている。	・毎日の活動の中で、子どもが伝えていることをしっかり聞き、職員間で話し合い、子どもたちの成長に繋がる活動案を計画していく。
2	・職員が元気だからこそ、子どもも体力づくりができる。	・子どもと関わるうえで、同じ目線で対等なやり取りを意識し、子どもたちが楽しんで参加できそうな活動を提案し一緒に楽しんで取り組んでいる。	・職員子どもと体調管理と、子どもたちが主体的に楽しいと思えるように活動を展開していく。
3	・オリエンテーションや焼き芋会を行い、保護者同士や兄弟同士が交流する機会を設けられている。	・職員や保護者同士、子どもたちが同じ環境の中で、活動を通して、事業所での様子を知ることができ、家での様子や困りごと等を相談したり、交流したりすることができた。	・職員のペアレントトレーニング等に関する研修の計画を立てていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動の様子を保護者へ発信できていない。	・スケジュール調整が厳しく、写真を加工してからの選別が難しい。	・スケジュール、時間を確保し、LINEやInstagramを利用していこうと計画している。
2	・公開療育を行っていない。	・普段の活動から、長期休みの活動に職員を取られ、時間と職員の人数確保が厳しく、行うことができなかった。	・次年度は、職員の人数確保とスケジュールを調整し、公開療育を行えるよう計画していく。
3	・活動前に職員間で打ち合わせは行っているが、その日の振り返り、反省を行っていない。	・その日のリーダーが、時間があるときに個別で様子や流れなどどうだったか聞くことはあるが、毎日ではできていなかった。また、次回の活動計画を立てる際、子どもたちの様子を把握できていないため、次回に活かさない時が多々あった。	・当日の振り返りが難しい場合は、翌日に設けたり、リーダーが中心になって職員からの意見や振り返りや意見を収集して、情報共有を行い、次回の活動へ行かせるよう意識して行う。